

第6章 リスク・コミュニケーションと地域社会への積極的関与

作成者:福家佑亮¹

本章の概要

効果的で公平なワクチン計画を実施するためには、連邦政府や州、地方、部族及び準州 (the state, tribal, local, and territorial: STLT) の当局と関係諸団体の間に、双方向的で透明性のあるコミュニケーションが確立していなければならない。エビデンスに基づいたリスク・コミュニケーションは、(1) エビデンスと整合的で、(2) リスク・コミュニケーション間での整合性もとれており、(3) 公衆のニーズに呼応的で、(4) 理解可能なものであることを事前のテストで確認しており、(5) 効果的なチャネルを通じて信頼性のある情報源から提供されたものでなければならない。リスク・コミュニケーションと地域社会への積極的関与が成功するかどうかは、ワクチンとその配布等に関する、科学的に健全で、独立のレビューを受け、率直に報告された情報にかかっている。たとえば、リスク・コミュニケーションの当事者たちは、臨床試験におけるワクチンの安全性と有効性などの情報について知っていなければならない。また、ワクチン計画には、政府や商業的な利害を持つ企業から独立し、多様なコミュニティを代表する科学者達が含まれていなければならない。

科学的な基礎

以上の試みは、リスク・コミュニケーションと地域社会への積極的関与についての科学的知識に基礎づけられているべきである。これらの研究に関する要約は、『リスク・コミュニケーションを改善する (*Improving Risk Communication*)』をはじめとする、以前に出版された全米アカデミーの報告書の中で見つけることができる²。

リスク・コミュニケーション

リスク・コミュニケーションには、4つの段階からなる反復するプロセスが含まれている

1. 対象となる聴衆の成員が直面する決定について、関連する証拠を要約する。
2. 聴衆が現時点で信じていること (**their current beliefs**) について記述する。
3. 理解の間の重要なギャップを埋めることを目的としたコミュニケーションを設定する。
4. 聴衆が情報に基づいた決定を確実に実行できるように事前にテストを行い、必要ならば、以上のステップを繰り返す。

ここでの指導的な原理は、自分がどれだけ他者の観点を理解しているか、また、どれだけ

¹ 立命館大学非常勤講師

² ここで列挙されている全米アカデミーの報告書に関しては、177頁を参照。

他者に理解されているかについて、人々は過剰評価しているために、コミュニケーションは、普及する前にテストされなければならないというものである。簡便で費用の掛からないテストとしては、思考発話法 (*think-aloud protocol*) がある。このテストは、読解中に考えていることを声に出してもらうことで、メッセージの解釈や、メッセージを作成した人々に対してどのような印象を抱いたのかを共有するものである。

リスク・コミュニケーションの内容に関する目標

STLT 当局は、ワクチンの必要性を人々が自分で判断できるように、ワクチン分配の背後にある原理やワクチンの安全性・有効性について、明確な形でコミュニケーションを行わなければならない。また、ワクチンに期待される結果について記述する際には、後に副作用等が明らかとなった際に騙されたと感じないようにするために、どれぐらい予測が不確実なものであるのかなどについて示さなければならない。加えて、STLT 当局は、さまざまな背景や知識を持つ聴衆に適切な仕方でのコミュニケーションを行わなければならない。最後に、COVID-19 についてのコミュニケーションは、マスク着用を含めた、パンデミックを抑制するための他の対策の文脈の中に位置づけられるべきである。

リスク・コミュニケーションの内容

COVID-19 ワクチン接種にかかわるリスク・コミュニケーションの努力は、まずメッセージのプロトタイプを制作し、それを個別の状況に追わせて修正することで、最も効率的になるだろう。これらの努力は、COVID-19 に関連のある現存の研究の結果と方法に依拠すべきであるが、特に以下の問題に特に注意を払う必要がある。

適切な説明がないと誤解される恐れのある疾病

明確な説明を必要とする疾病の特徴には、どのように迅速に疾病が広まるのか、どのように疾病が離れた場所にいる人に伝染するのか、どのように疾病検査を解釈するのか、どのように組み合わせれば不完全な予防策であっても総合的に見て十分な保護を生み出し得るのか、といったものが含まれる。

ワクチン接種の取り組みにかかわる手続きとパフォーマンスにおける公平性

STLT 当局は、COVID-19 ワクチン接種の取り組みに関して、人々をどのように公平に扱ったかについて、精査を受けるだろう。STLT 当局は、ワクチン接種の取り組みの手続きとパフォーマンスについて、信頼できる仕方での説明する必要がある。おそらく、STLT 当局は、不完全な情報や政治的な目標に基づく批判だけでなく、ワクチン分配の根本的な原理に反対する人々や、ワクチン接種の取り組みについてのエビデンスの解釈に異議を呈する人々からの批判に直面するだろう。

経験的なテスト

コミュニケーションは、理解可能性、適切性、有用性、アクセス可能性について事前にテストされねばならない。

適切な調整

メッセージは、多様な人々のニーズ（たとえば、母語や読解力など）に合わせて調整し、アクセス可能なチャネル（たとえば、視覚や聴覚に障害を抱えている人々に向けて）を通じて伝えられなければならない。ここでも、地域社会の協力と賛同が成功に不可欠となるだろう。

地域社会への積極的関与

STLT 当局は、多様な聴衆に対する尊重を表明する必要があるが、そのための広く受け入れられた最良の実践が、公衆と専門家間の双方向的なコミュニケーションである。このプロセスは、最適な仕方でも地域社会の懸念に対応し信頼関係を構築するためにプロジェクトの初期から開始され、プロジェクトの経過観察を通じて継続していくことになる³。

初期段階におけるコミュニケーションは、公衆のニーズを満たす確率を上げ、忌避感を持つ人々をワクチンの臨床試験に動員することに成功する確率を高めてくれるかもしれない。また、公衆の持続的な関与は、当初の計画から逸脱するリスクを低くしてくれる。

STLT 当局は、公衆が対立するメッセージに混乱し、繰り返されるメッセージに圧倒されないように、コミュニケーション間の調節をはかるプロセスを必要としている。この調節のためには、ワクチン接種の取り組みを地域社会に有意味な言葉に変換する能力を持つ地域社会の指導者が、鍵となる役割を果たす。

地域社会への積極的関与のプロセス

COVID-19 ワクチン接種計画のための地域社会への積極的関与は、本報告書で引用されている広範な科学と実践に依拠すべきである。とりわけ、持続的な地域社会への積極的関与、多様なチャネルを通じた関与、適時性、信頼性について注意が払われるべきである。

持続的な地域社会への積極的関与

地域社会への積極的関与は、ワクチンの配布、分配、管理について意見を反映させ、地域社会との協力関係へのコミットメントを示すために、双方向のコミュニケーション・チャネルを早期に確立しなければならない。

多様なチャネルを通じた関与

地域社会への積極的関与は、公的な集会に参加することが難しい人々や、限られたブロー

³ 6章の181頁にはこのプロセスの図式化の一例が掲載されている。

ドバンドサービスしか契約していない人々を含めた、対象となる聴衆に適したチャンネルを使用しなければならない。

適時性

地域社会への積極的関与は、当の地域社会のニーズを観察して予期し、地域社会に住まう人々の目から見たワクチン接種の取り組みに関する情報を、STLT 当局に提供しなければならない。

信頼性

地域社会への積極的関与は、STLT 当局を、COVID-19 ワクチン接種に関して信頼できる情報源として位置付けるよう努めなければならない。また、信頼が棄損されることを防ぐために、ワクチン接種の取り組みに関する活動は、それが言語的・非言語的活動であるかを問わず、自己批判的に監視されるべきである。

リスク・コミュニケーションと健康増進

情報提供の義務を果たすことで、ここで説明したリスク・コミュニケーションや地域社会への積極的関与は、以下の章で説明する健康増進等の活動と相互補完的に機能することとなる。リスク・コミュニケーションと健康増進は、両者が明確に区別されているとき、最も上手く相互補完的に機能する。説得しようという意図が前面に出すぎると、不信感を生み、かえって情報に対する信頼度は低くなる。説得を目的としたコミュニケーションは、コミュニケーションの受け手が公衆衛生上の勧告の背景にある情報を既に獲得しており、また信頼関係が構築されている場合、より効果的なものとなる。

リスク・コミュニケーションと健康増進は異なるものであるが、COVID-19 とワクチン接種の取り組みに関する事実に基づきつつ、両者は連携されなければならない。

結論

リスク・コミュニケーションと地域社会への積極的関与が成功を収めるためには、いくつかの懸念事項への対応が鍵となるだろう。第 1 に、多様な背景を持つ集団と連絡を取るための異文化対応能力 (cultural competency) が必要となる。第 2 に、公衆が混乱しないように、信頼できる情報源に由来する一貫性と権威ある情報を提供しなければならない。第 3 に、COVID-19 ワクチン接種の取り組みのいくつかの特徴は馴染みが薄く、効果的なコミュニケーションのためには特別な努力が必要とされるだろう。第 4 に、COVID-19 ワクチン接種の取り組みに関する情報は、様々なニーズを抱えた公衆に役立つものである必要があるだろう。第 5 に、地域社会の協力機関の中には、物質的・財政的な支援を必要とするものがあるだろう。第 6 に、ワクチン接種の成功を阻害する可能性のある仕方で、COVID-19 ワクチンに対する認識がすでに形成され始めているため、以上の取り組みは直ちに開始さ

れなければならない。

リスク・コミュニケーションと地域社会への積極的関与を実施する責任を負う機関は、変化する状況やフィードバックに迅速に対応する機敏さ (*agility*)、関連するリスク・コミュニケーション研究を適用する能力 (*competence*)、必要とされる視点を巻き込む多様性 (*diversity*)、信頼を確保し率直なフィードバックを提供する独立性 (*independence*) を備えていなければならない。

提言4 COVID-19 ワクチンについて、リスク・コミュニケーションおよび地域社会への積極的関与に関するプログラムを作成し、適切な仕方で資金を提供せよ。